

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2016 年 1-3 月期〕

公益社団法人全国産業廃棄物連合会

〔調査結果の概要〕

景況判断 DI は▲32 となり、前期と比べて 4 ポイント悪化した。低調な業況が続いている。

2016 年 1-3 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 35%で前回調査（2015 年 10-12 月期 32%）より 3 ポイント悪化、「好転」とした企業は 3%で前回調査（4%）より 1 ポイント悪化した。景況判断 DI は ▲32 となり、前回調査（▲28）より 4 ポイント悪化している。

以下、その他業況感 DI の内訳

2015 年 10-12 月期に対して、

- ・ 売上高 DI は▲20 で、14 ポイント悪化
 - ・ 処理量 DI は▲20 で、15 ポイント悪化
 - ・ 契約単価 DI は▲7 で、1 ポイント悪化
 - ・ 営業利益 DI は▲22 で、10 ポイント悪化
 - ・ 資金繰り DI は▲4 で、3 ポイント改善
 - ・ 借入難易度 DI は 5 で、2 ポイント改善
 - ・ 設備投資 DI は▲6 で、同水準
 - ・ 従業員数 DI は▲2 で、1 ポイント悪化
- 今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲31 となり、1 ポイント改善する見込みとなっている。
- 売上高の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 4.6%増となった。
- 処理量の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 0.4%増となった。
- 経常利益率については、平均値が 4.80%（前回調査 4.90%）となった。回答割合は「5%未満」40.8%、「5-10%未満」14.0%、「10%以上」13.7%となった。
- 経営上の問題点としては、「需要の停滞」23.5%（前回 25.0%）、「同業者相互の価格競争の激化」18.0%（前回 19.1%）と引き続き上位となった。前回調査と比べて、順位に大きな変動は生じていない。

※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

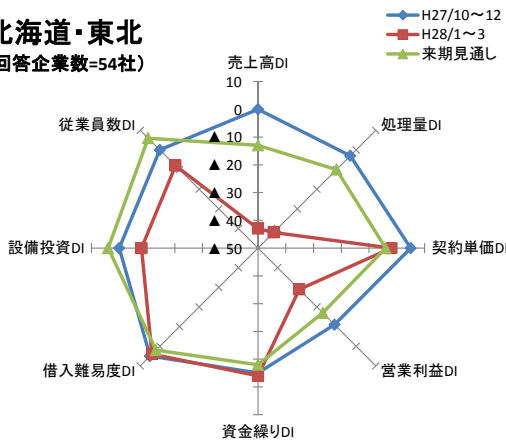
※本調査は、2009 年から半期周期の調査として実施していたが、2013 年からは四半期周期の調査に変更している。

〔調査の要領〕

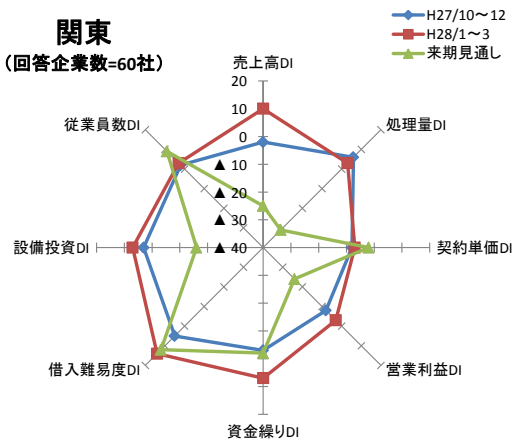
- 調査の対象：2008 年 10-12 月期で回答のあった全国の協会会員企業、全国産業廃棄物連合会理事及び部会運営委員会委員
- 調査の方法：郵送によるアンケート
- 調査期間：平成 28 年 4 月 11 日～5 月 18 日
- 回答企業数：371 社

【地域別レーダーチャート】

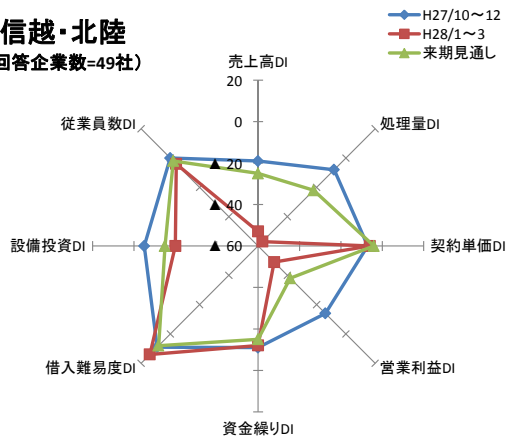
北海道・東北
(回答企業数=54社)



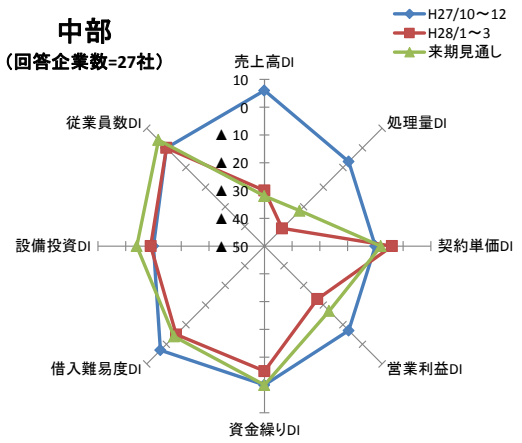
関東
(回答企業数=60社)



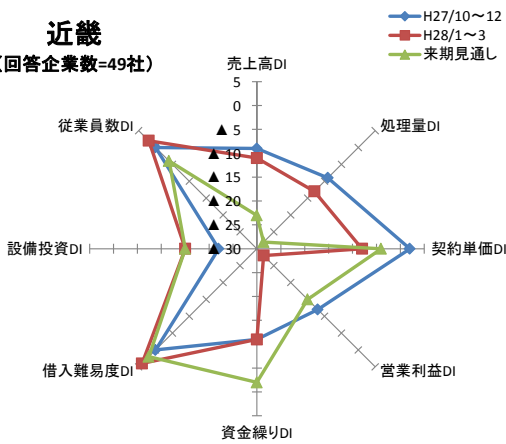
信越・北陸
(回答企業数=49社)



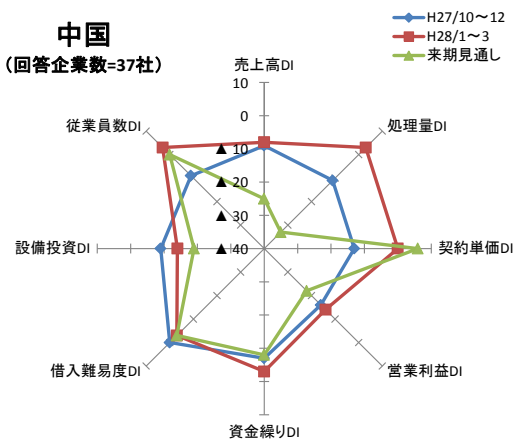
中部
(回答企業数=27社)



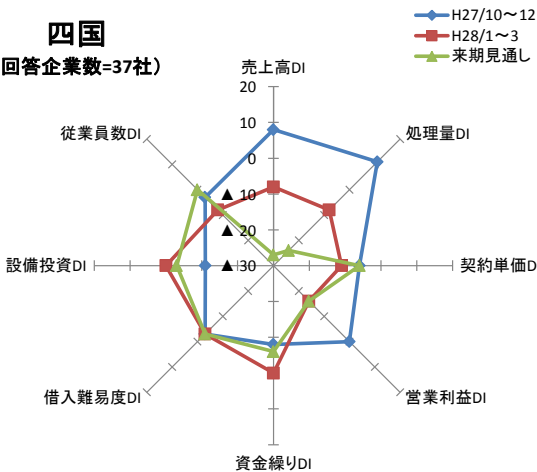
近畿
(回答企業数=49社)



中国
(回答企業数=37社)



四国
(回答企業数=37社)



九州・沖縄
(回答企業数=58社)

